

令和2年度

大妻女子大学 新入学生意識調査報告書

令和2年度入学生の皆さんに、入学時意識調査（アンケート）を実施しました。
ここでは、その調査結果の概要を分かりやすくご報告します。
このアンケートで得られたデータは、皆さんの学生生活や教育の質の向上に生かしていきたいと思えます。
新入生の皆さん、ご協力ありがとうございました。



スクールキャラクター
「おーたん」

調査の概要

(1) 調査方法

調査は、UNIPA（Web アンケート機能）での実施でした。

(2) 実施日

令和2年10月22日（木）～11月7日（土）でした。

(3) 調査対象者

調査対象者は、令和2年度の新入生2006名で、今回はこのうち回答の得られた1431名の集計結果になります。

【Q1】大妻女子大学への入学は、次のどれに当てはまりますか。

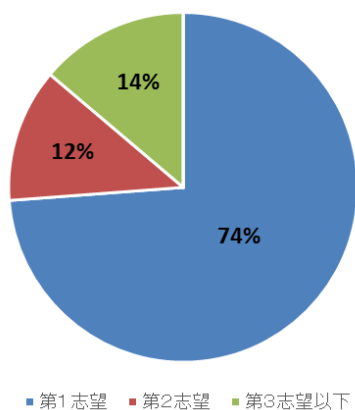


図 1 大妻女子大学の志望度

大妻女子大学を第一志望で入学された学生さんは7割弱と高い結果になっております。



【Q2】入学した学科・専攻は、次のどれに当てはまりますか。

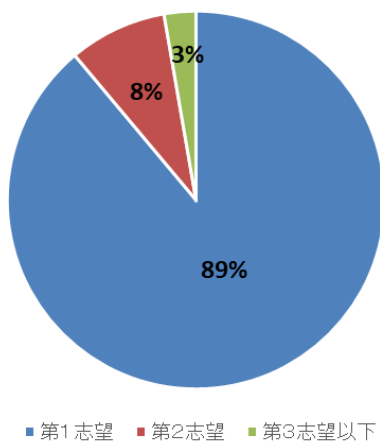
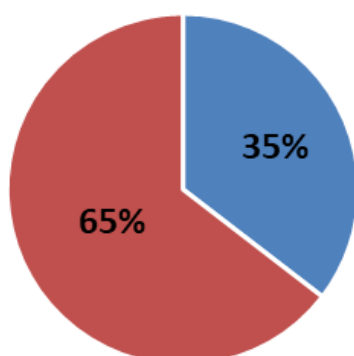


図 2 入学した学科・専攻の志望度

約9割の学生さんが、学びたい学科・専攻に入学しているようです。



【Q3】受験を決めたプロセスについて教えてください。次のいずれのプロセスで受験を決めましたか。



- ①まず大妻女子大学に関心を持ち、次に学部・学科等を選んだ
- ②まず受験したい学部・学科等を決め、次に大妻女子大学を選んだ

図 3 受験を決めたプロセスについて

Q2の学びたい学科・専攻に入学している結果が示す通り、受験したい学部・学科を決めてから大妻女子大学を選んだ学生が多い結果となりました。



【Q4】 本学への入学理由について、最も近いものから順に、第1位、第2位、第3位をそれぞれ1つずつ選んでチェックしてください。

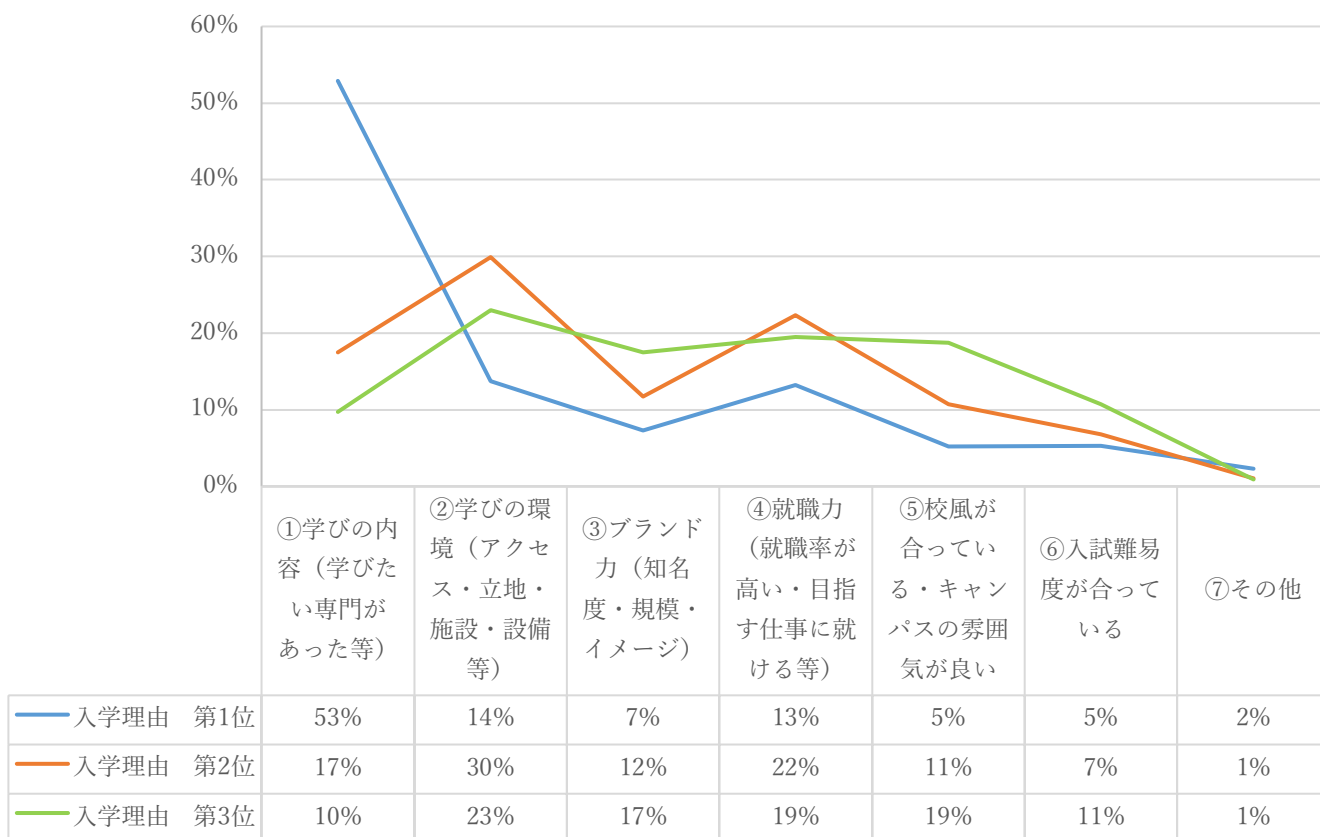


図 4 入学理由の順位

皆さんは、なぜ大妻女子大学を選んだのでしょうか？

その理由を第1位から第3位までたずねました。

もっとも多かったのは、「学びの内容（学びたい専門があった等）」という学問の追求が理由でした。次いで「学びの環境（アクセス・立地・施設・設備等）」、「就職力（就職率が高い・目指す仕事に就ける等）」という項目を入学理由として、挙げた学生が多い結果となりました。

まずは、“学びたい学問を深める”、次に将来に備える“就職力”、そして数年間通うこととなる“環境”を重視した結果が表れているかと思われます。



【Q5】入学前に大妻女子大学に対して持っていたイメージはどのようなものですか。

あてはまるものをすべて選んでチェックしてください。

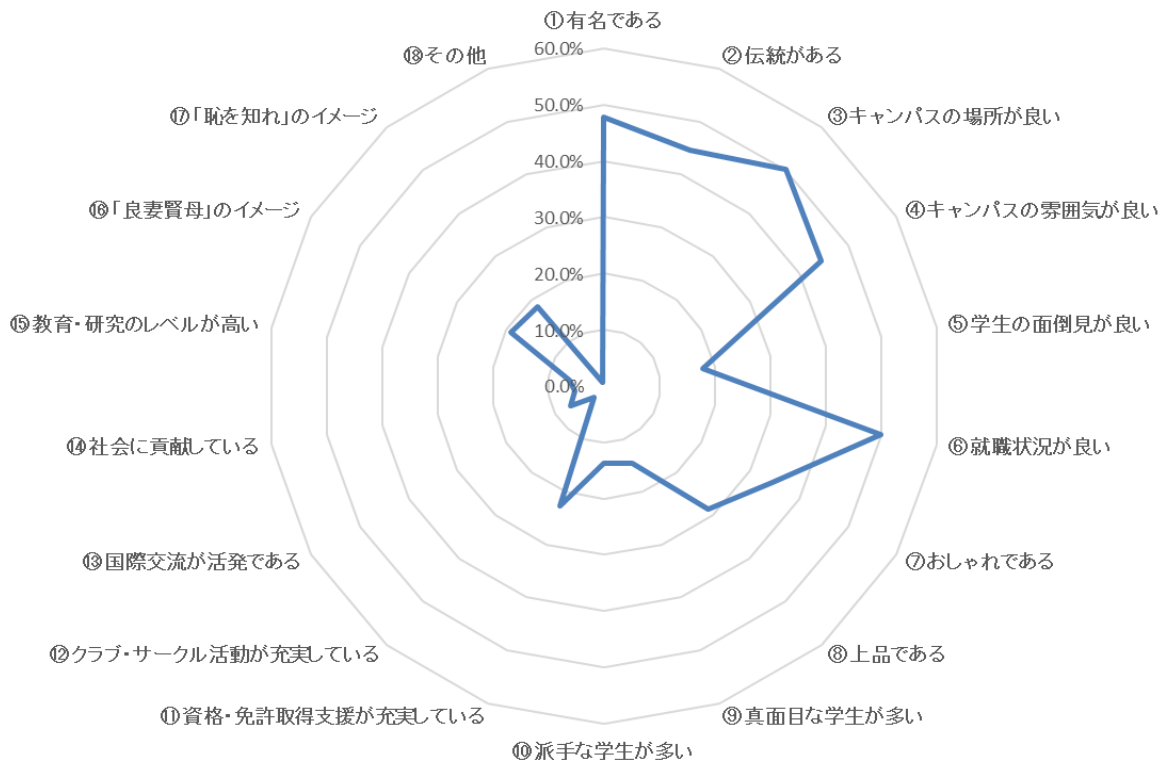


図 5 入学前の大妻女子大学のイメージ

入学生が持っていた大妻女子大学のイメージです。

アンケートの結果、一番高いイメージは「就職状況が良い」でした。やはり、卒業後の将来の就職先を入学時から気にかけている学生が多いことがうかがえます。

次いで「キャンパスの場所が良い」「有名である」「キャンパスの雰囲気が良い」等知名度や環境を大妻女子大学のイメージに結びつけているようです。

一方で、「国際交流が活発である」「社会に貢献している」「クラブ・サークル活動が充実している」などのイメージは低いようです。



【Q6】男女共学校ではなく、女子大学に入学を決めた理由はどのようなものですか。

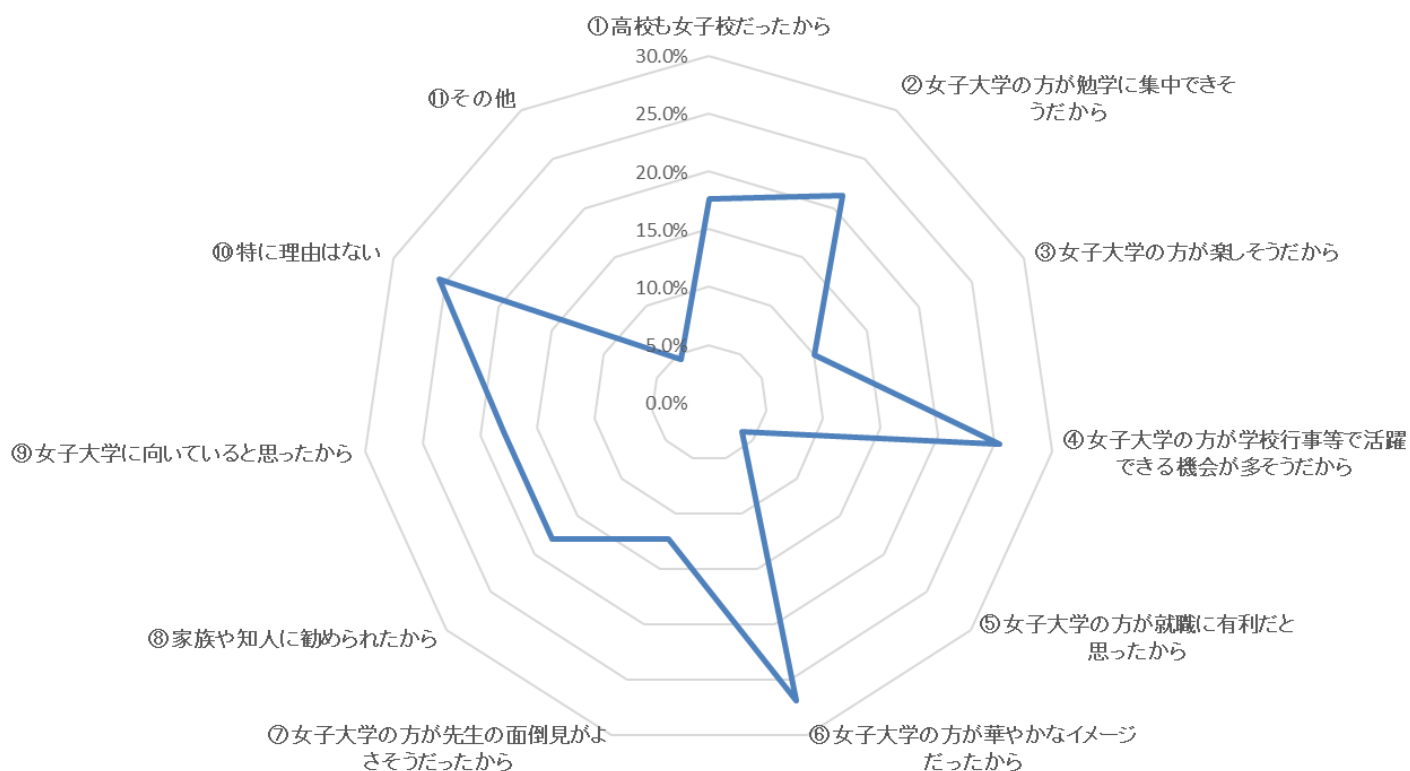


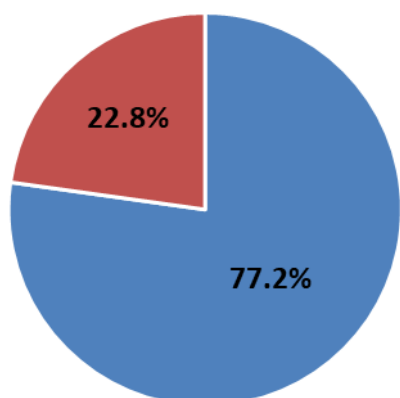
図 6 女子大学に入学を決めた理由

女子大学を選んだ理由 1 位は、「女子大学の方が華やかなイメージだったから」、次いで「女子大学の方が学校行事等で活躍できる機会が多そうだから」でした。

一方で、「特に理由はない」とする学生も多く、“女子大学だから”といったことはないのかもしれない。



【Q7】女子大学は男女共学校に比べて就職に有利だと思いますか。



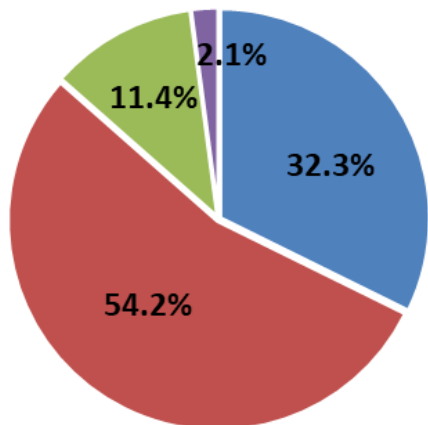
■ ①思う ■ ②思わない

図 7 女子大学の就職有利度

約 8 割の学生が女子大学の方が共学校に比べて就職に有利だと思っているようです。



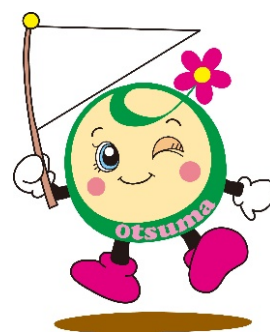
【Q8】大妻女子大学に入学したことにどの程度満足していますか。



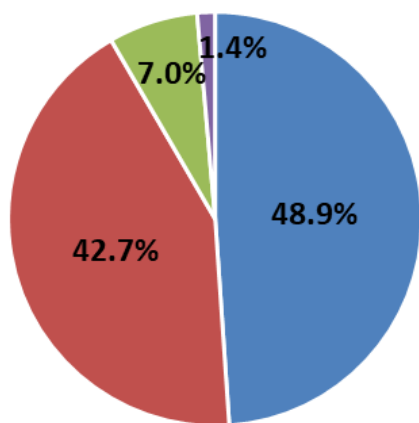
■ ①満足 ■ ②やや満足 ■ ③やや不満足 ■ ④不満足

図 8 大妻女子大学への入学に対する満足度

「満足」「やや満足」をあわせると約9割の学生さんが、大妻女子大学への入学に満足しているようです。



【Q9】所属の学部・学科・専攻に入学したことにどの程度満足していますか。



■ ①満足 ■ ②やや満足 ■ ③やや不満足 ■ ④不満足

図 9 所属の学部・学科への入学に対する満足度

ほぼすべての学生が、所属へ学部・学科・専攻への入学に満足しているようです。



【Q10】 高校時代の授業科目について、得意だった科目と苦手だった科目を3つまで選んでチェックしてください。

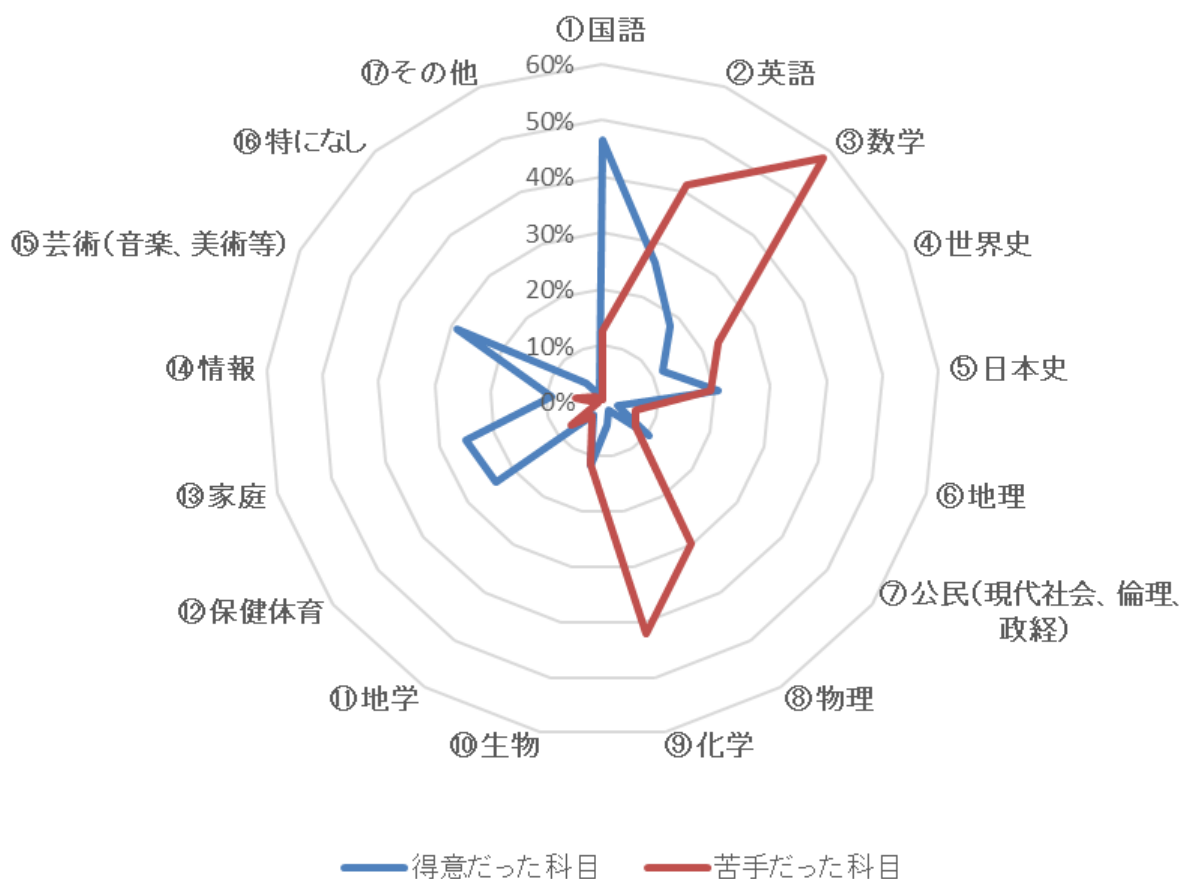


図 7 高校時代の得意科目と苦手科目について

多くの学生が「国語」を得意科目として挙げ、「数学」を苦手科目として挙げた結果となりました。

大学生になってから、授業内容は大きく変化したかと思いますが、得意科目と苦手科目は変わりましたか？



【Q11】 あなたの高校時代の学習の様子について、当てはまるものをすべて選んでチェックしてください。

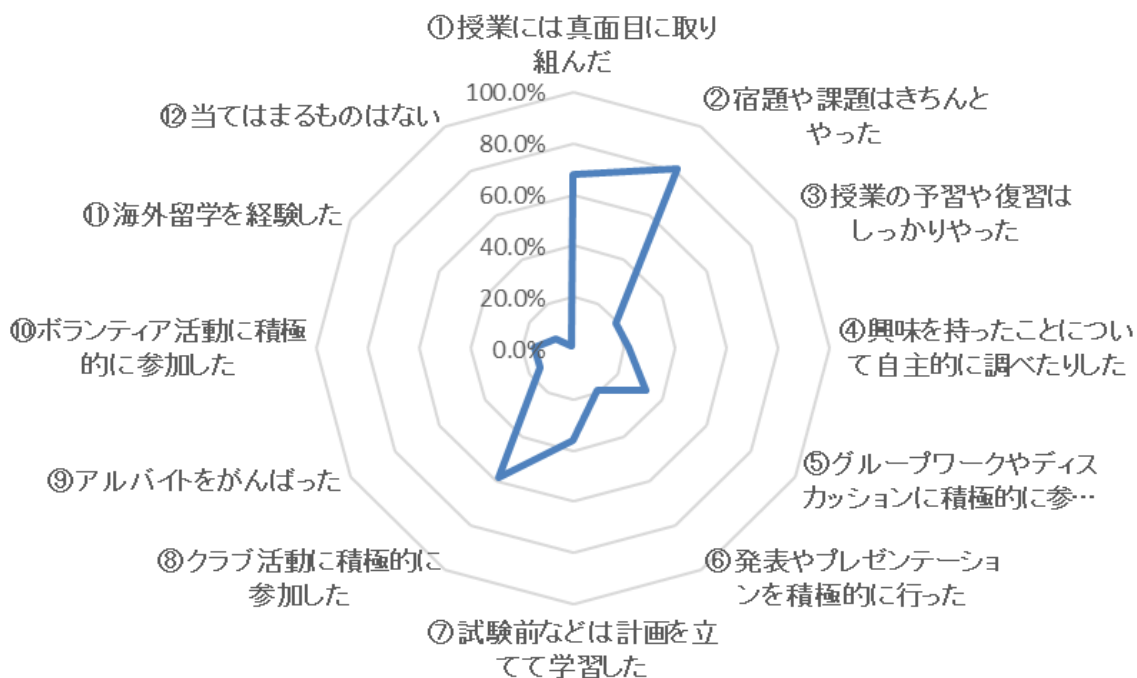
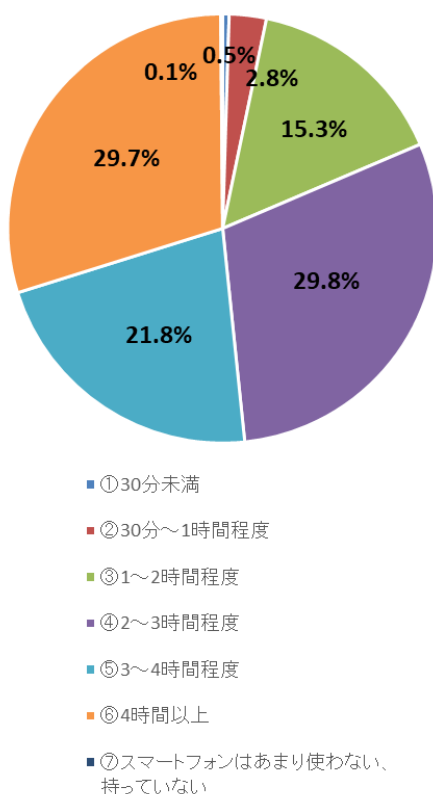


図 11 高校時代の学習の様子について

宿題・課題、クラブ活動、そして授業と高校生活を充実しつつ、まじめに取り組んできた学生が多いようです。



【Q12】 あなたはスマートフォンを平均して1日にどの程度利用していますか。



「4時間以上」との回答も約30%と高い割合を占めました。また「30分未満」「スマートフォンを持っていない」と回答した学生はほぼ存在しませんでした。

進む情報化社会の中で、スマートフォンはなくてはならないものへと変化していきました。

今後、膨大に増え続ける情報に対して、どの様にあなたは向き合っていきますか？



図 12 スマートフォンの1日あたりの利用状況

【Q13】あなたが大学進学を選択した理由について、最も近いものから順に、第1位、第2位、第3位をそれぞれ1つずつ選んでチェックしてください。

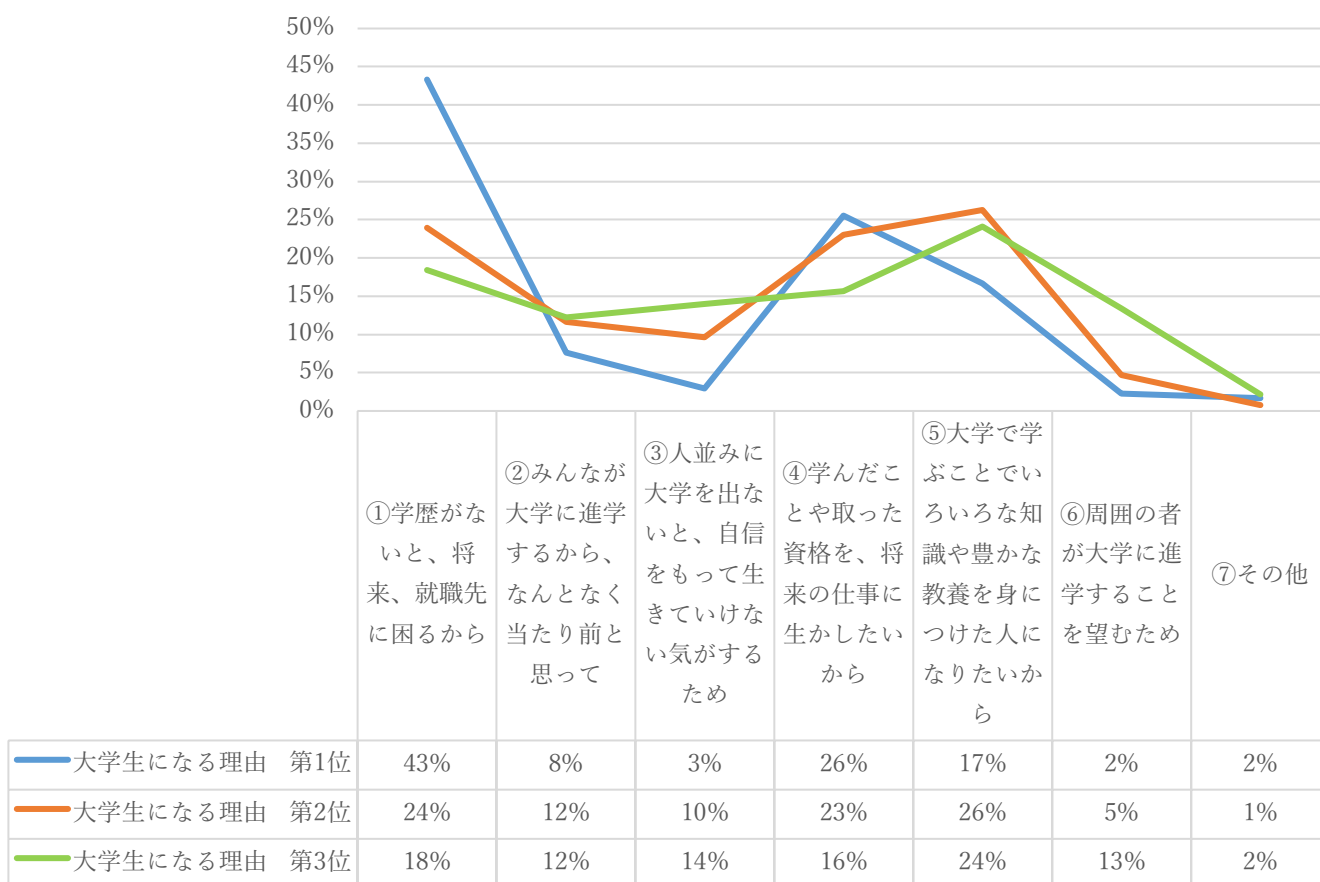


図 13 大学進学を選んだ理由

皆さんは、なぜ大学生になったのでしょうか？その理由を第1位から第3位までたずねました。もっとも多かったのは、「学歴がないと、将来、就職先に困るから」という将来に対する社会的不安要素の解消でした。

他には、「大学で学ぶことでいろいろな知識や教養を身につけた人になりたいから」という充実志向や「学んだことや取った資格を、将来仕事に活かしたいから」という目標を持って大学進学をした学生も多いようです。

まずは“生活の安定”、次に“自分自身の目的”という結果になりました。



【Q14】 いよいよ大学生活が始まりました。あなたは、大学生活が始まるにあたり、以下のような問題に対して、どのくらい心配しているでしょうか。それぞれの問題について、あなたの心配の程度にもっともあてはまると思うものを選択肢から選んでチェックしてください。

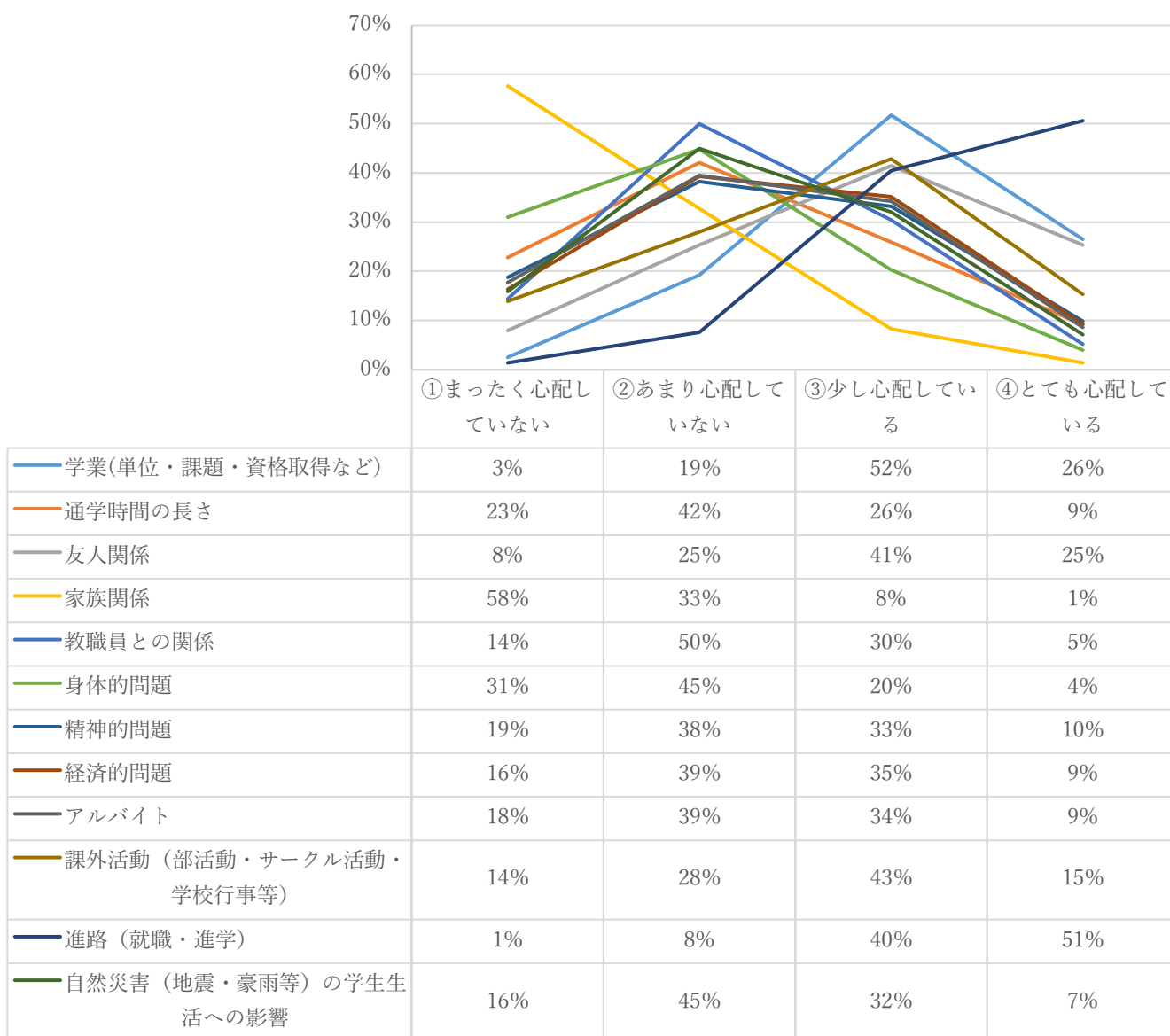


図 14 大学生活を始めるにあたり各項目に対する心配度

③・④の割合から、学生にとって「進路」「学業」「友人関係」に対する不安は高いようです。一方で「家族関係」を不安にしている人は全体的に少ないようです。現在の大学生活はいかがでしょう？



【Q15】 所属する学部・学科・専攻の3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を知っていますか。あてはまるものを選択肢から選んでチェックしてください。

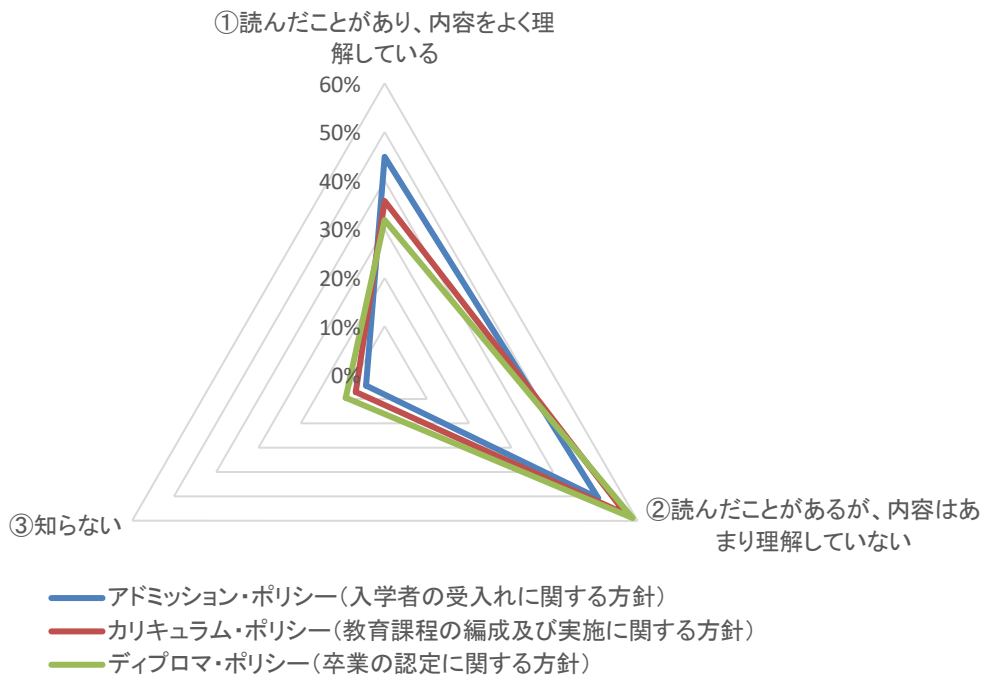
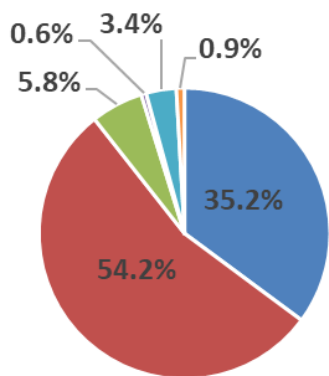


図 15 3つのポリシーの認知度について

入学時はやはりアドミッション・ポリシーの認知度が高いようです。入学後の学習においてはカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが重要となりますので、理解を深めておきましょう。



【Q16】 卒業後の進路について、現段階でどのように考えていますか。あてはまるものを選択肢から選んでチェックしてください。



- ① 就きたいと思っている仕事がある
- ② 就きたいと思っている仕事はないが、就職を考えている
- ③ 進学(大学院、他大学編入、専門学校等)したいと考えている
- ④ 卒業後はできれば働きたくないと考えている
- ⑤ 現段階では特に考えていない
- ⑥ その他

現時点で「就きたい仕事がある」と答えた学生が35%、「就職を考えている」学生は約90%いることがわかりました。また、進学を考えている学生も約6%いました。

長いようであつという間の学生生活を充実しつつ、将来の方向性にも目を向け始めている学生も多いことがわかりました。

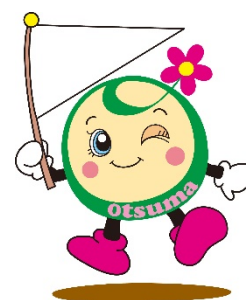


図 16 卒業後の進路について

あとがき

御忙しい中、令和2年度の新入生アンケートの回答に御回答をいただき、まことに有難うございます。

時代の大きな変わり目という象徴的な年でした。社会では働き方改革がキーワードになりました。とりわけ女性の働き方がこれから国民的な大課題となっていくことが動かしがたい流れとなりました。

しかも、日本は男性女性が社会参画できているかという調査の結果、いろいろな場面で、とても男女平等とは言えない過渡期段階という数字をつきつけられているのが現状です。

皆さんはこれをより良き未来に突破していくべき最前線に身を置いていることとなります。

これはまちがいない事実です。

どういきびしい時代になろうと、学び、かつ働き続けることのできる女性を、と新しい時代に向かって大妻学院は宣言しました。新型コロナウイルス禍の必ず来る彼方を信じて生きてください。

言うまでもなく、丁度百年前、大妻コタカ先生が申されていたことを改めて力強く確認したということです。改めて大妻学院の精神を土台に、中々手強い世界と巧く付き合ってくださいよう。

タフな向上意志と、常識とバランスのとれた適応力が必須なのですが、そのポテンシャルある諸君だということが今回のアンケートでよくわかり、頼もしく感じられた次第です。

丁寧かつ実直なる御回答にあつく御礼申しあげますとともに、皆さんのお考えを長く念頭に置いて、学院としてもたゆみなく努力していくつもりでございます。

令和3年1月8日

大妻女子大学大学教育推進機構

機構長 高山 宏

令和2年度

大妻女子大学 新入生意識調査報告書

(学生版)

発行日 令和3年1月

編集・著作者 大妻女子大学 大学教育推進機構 / 教育支援グループ

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地